

元禄14年当時、吉良家（吉良上野介）は、

借金地獄だった

しかも、商家に返済できず、町奉行所に訴えられていた。これでも、現 吉良町の方々は「名君」と主張されますか。この借金地獄と聞いただけでも、吉良町の「黄金堤」の伝説は、虚話であることが素人でも分かる。従って、金策のために、大名家からは金目の掛け軸や置物を持ち帰り金銭に替えていた。更に、役目に当たっては、賄賂の少ない大名にはいやがらせをしていたのだ。これが元禄14年に起きた松之廊下事件の本質である。今年12月14日には、更に詳しく1冊にまとめ皆様にお知らせ致します。

中島康夫

債権者	金額(両)	内即時支払請求額(両)	勘定科目
さがみ屋又兵衛	六百	七十	服飾費
呉服屋伊兵衛	五百	百五十	服飾費
薪屋庄兵衛	五百	百三十	燃料費
米屋七郎兵衛	四百	五十	食料費
八百屋五兵衛	百二十	三十	食料費
万屋市兵衛	百二十	五十	食料費
酒屋清之助	七十	二十	食料費
米屋次郎兵衛	百二十	二十	食料費
畳屋権右衛門	六十	三十	修繕費
大工与十郎	百	二十	修繕費
佐官小左衛門	九十	二十	修繕費
合計	二千六百八十	五百九十	

天和元年六月吉良家町方買掛金内訳一覽

NPO 法人

忠臣蔵倶楽部会報

発行人
〒135-0047
東京都江東区富岡 1-17-1-403
忠臣蔵倶楽部
TEL&FAX 03-3630-1927
編集者 中島康夫

ホームページ
忠臣蔵会館
出版・校正・協力
テレビ製作協力
講演・史跡案内
<http://www.chuushingura.net/>

寺坂吉右衛門
定価 2000 円
(消費税込)
送料 370 円
048-973-3777

郵便局の払込票をご利用下さい
中央義士会
00250 9 139100

吉良家の借金地獄

中央義士会 評議員 蟹江 元

近年は、吉良家に大きな借財があり、おそらくその後も解決されず、燻ぶっていたことが明らかになっている。

吉良家の財政状況については、従来、上杉家が吉良家の借金の肩代わりをしていたと云うのは伝聞として、或いは個々には発表されてはいたが、体系的では無かった。「編年文書」「上杉家文書」の解説が進み、ある程度見えてきたと云える。最近では、「小林輝久彦・江戸前期のある旗本の財政状況についての考察―幕府高家吉良義央の場合―2016」「大倉山論集第六十二輯」や、「青木昭博・第一章第五節吉良家の仲介と上杉家の援助」「上杉と吉良から見た赤穂事件・青木昭博 小林輝久彦 2017 米沢信用金庫」、「谷口眞子・吉良家 上杉家からみた赤穂事件」『特別展図録 二元禄赤穂事件・赤穂市立歴史博物館2019』、『図説忠臣蔵の真実―赤穂事件と米沢・角屋由美子・米沢市上杉博物館』などで明らかになっている。

吉良家は特別の事情もあるが、この当時の一般論で云えば、普通の旗本でも生活が奢侈の傾向で、米収入の米そのものの価額が不安定でもあり、借金が増加していたことは明らかである。

寛文六年（一六六六）の「吉良義冬書状」は吉良家老の団安兵衛宛書状の追而書には百兩借用を頼むものであり、翌年の吉良義央の年頭賀使が予定されたので、当座の借用をしたと考えられている。

延宝五年（一六七七）の「千坂兵部・本庄出羽書状（閏十一月二十一日付）」には、「吉良家の財政逼迫について

相談があった。去年迄は上杉家の財政援助があったが今年からなくなり、吉良家は破産に至る状況に陥っている。前回の吉良家の町方の買掛金六〇〇〇兩は、上杉家が大坂商人から年一〇〇〇兩を借りて、去年まで六年間で返済した。上杉家も麻布邸の新築（延宝三年）等で年末の未払い金は七〇〇〇兩にのぼり、国元でかき集めた金は三〇〇〇兩であった。上杉家は吉良家を援助すべき立場は認識しているが上杉家もお金がない状況である。生善院の指示で、幕府高家の畠山家にも報告した」とある。

また、寛文十一年（一六七一）頃になるが、町方の買掛金が累計で六千兩で、当然吉良家の石高と役料では処理できない。そこで大坂商人に借りて、分割で去年まで返したわけである。大金の援助を受けたのだから、重ねての無心はしないよう、保科正之が吉良義央に申し入れたと云う。

延宝六年（一六七八）十一月には吉良家に次男が生まれ、暮の支払いに困り、上杉家は、十一月十九日に五十兩、二十四日に百兩、十二月一日に米九十俵、二十日に百五十兩、二十八日に百兩を合力することになる（「延宝六年七月後ノ御日記帳」および「上杉と吉良から見た赤穂事件」）。おそらく、支払わないと、取引に応じない商家の要求に応じて買掛金の一部の返済に使われたのだろう。

続いて天和元年（一六八一）とされている「須田右近書状（六月二十日付）」には、吉良家の借金について、さらに深刻な事態を報告したものである。「畠山下総守が、吉良義央とも話し合った上で相談にきた。吉良家の家計は逼迫している所、伊兵衛が買掛金五〇〇兩を支払うよう町奉行所へ訴え出た。義央は、度々上杉家に無心を重ねているので今回は頼まないと云っているが、方策

もないので生善院にも相談した。上杉家の買掛金も莫大で（三〇〇〇兩では済まない）、家臣の扶持米も渡せない状況である。吉良家の家臣と確認したところ、他の町人も訴えるようで、買掛金の総額は二七六〇兩におよぶ。吉良家の家計は破綻しそうな状況であるが、上杉家で建て替えれば上杉家の買掛金が返済できない。生善院と畠山とも相談したが、方策もなく、米沢に帰国した綱憲にお伝えする。綱憲も江戸在府の頃は「迷惑な様子に見えていた」と吉良家の家計破綻だけでなく、上杉家も窮乏していたのである。

『吉良家日記』で見ると、上洛に際して自分へ人馬八人と七疋使用許可朱印状で金十枚と時服三枚と羽織を戴くとある。金十枚は当時七十二両である。この外にある費用が自分の持ちならば、当然領民への課役であろう。普通は課役であろうが、いずれにしる経費は吉良家の出費である。経費が増えたとしても高家の負担になる。吉良家が課役を遂行するために結果として大きな負債を抱えたことは間違いない。

対策として、諸家への贈答等を全て止める事を決めたのだが、『吉良家日記』には元禄に至っても天皇家に対する「自分之献上物（太刀・馬代）」を準備し、「自分進物」と云う呼び名の物を贈っていたことが明らかである。天和元年の吉良家買掛負債への対策であろうが、大きな効果は無かったのではないだろうか。

以上、吉良家の財政破綻状態について述べた。そうなるに領国の増収と費用削減そして他家からの合力や儀礼の指導料などに負うところが大きいわけであるが、吉良義央そのものが、財政再建に注力した様子がないので道は険しかったはずである。

これからの忠臣蔵

柿崎輝彦

新型コロナウイルスが世界中に拡散されたことで、我々はこれまでの生活様式を変えざるをえなくなった。すでに三密回避のソーシャルディスタンスやテレワーク、リモート会議、オンライン授業などが定着しつつあるが正直言ってどれもじっくりこない。我が祖国日本は明治維新以降先の敗戦や大規模災害など様々な国難と対峙し発展してきた歴史を有するが、近い将来政府が目指す社会と我々生活者による実態社会を擦り合わせた新しい生活スタイルの確立を目指すことになる。

一方で我等が研究している忠臣蔵も悩ましい問題を抱えている。かつて一世を風靡した忠臣蔵人気の斜陽問題である。しかも若者層の関心度は極めて低い。忠臣蔵の醍醐味は何と言っても忠義であり、それは未来永劫不変なものであると信じるが、忠臣蔵が再びかつてのような輝きを取り戻すには、今日忠臣蔵に求められているものが何であるのかを分析したうえで、しっかりと対応していく必要がある。

依然テレビの影響力は絶大で忠臣蔵を冠した番組は大変有難いのだが、その殆どで出演者の浅学や誤った認識による意見の応酬が目立ち、新たな進展はなく全く興味がそそられない。とくに気になるのは、長い間勧善懲悪を代表する娯楽として親しまれてきた忠臣蔵に対する偏った思い込みからか、史実と芝居とが混同し、更には三百年以上も前の武士社会に現代の正義や価値感覚を重ね合わせた無責任な発言である。例えば討入りをテロと表現し、赤穂浪士等の自己実現を就職活動などとする誤った見識である。しかも、その発言が著名人であったり社会的地位が高い方であった場合、その影響力は計り知れない。実際にそれらの発言に感化された人々がインターネットなどで拡散し、所々で同様の記述を目撃する。私自身も同様の質問や意見に何度となく遭遇している。

その点、昨年十一月に中島理事長監修の下に放映された「近松甚三郎ゆかりの家を訪ねる」では、帯同した歴史学者磯田道史氏が本物に触れ、心底感動感激する姿が司会の所ジョージら出演者をも巻き込み番組を大いに盛り上げた。一般に近松甚三郎の知名度がどの程度かは不明であるが、この番組からも真実の姿や本物を伝えることが如何に大事であるかを実感した。

元禄赤穂事件はけっして活劇ではなく実際にあった出来事である。しかも多くの犠牲者を生み出した悲劇の事件でもある。勧善懲悪の娯楽としての役目は十分に果たしてきた。これからの忠臣蔵は人によって作られた映像から史実へと徐々に移行していくはずである。少し乱暴ではあるが、巻き返しを図るにはかつての岩盤支持層に支えられた古き良き時代の忠臣蔵からの脱却も必要であると考えられる。神田伯山による空前の講談ブームの追い風はあるものの、歴女らが台頭する今日において忠臣蔵に求められているのは娯楽としてではなく間違いなく史実であり真実の姿である。

米国ハーバード大学では日本文化を理解する上で史実の忠臣蔵が教材になっていると聞く。世界をも見据えた忠臣蔵が目指すべき新しいスタイルは娯楽とは一旦距離を置いた真実の発信であると考えられる。まさしく中央義士会がこれまで歩んできた歴史そのものである。今日の情報発信はYouTubeやTwitterなどのSNSが影響力を持つ。あとは時代に合わせて発信力を高めるだけである。

史実を知らない人の「忠臣蔵論」

荻原 栄

憲政史研究者と名乗っている人物が、またまた変な「忠臣蔵論」を展開している。

「バカよさらば プロパガンダで読み解く日本の真実」という本が、昨年（2019年）4月10日にワニブックスから発刊された。著者は倉山満という方である。

この本の中で、忠臣蔵に関して述べているのはわずか1ページとちょっとであるが、まさに本のタイトル通りバカ丸出しの中身である。井沢元彦氏を彷彿させる書き手である。この方もインターネットではかなり批判されていて、その内容は「調べもせず書きちらす」「ペン乞食」「ビジネス右翼」と刺激的な言葉が並ぶ。まともな言葉で言うと、正しい知識もなしに、自分の思いつきと偏見だけのまさに書き散らした論である。

「バカよさらば・・・」の中で、著者は

「これ以上ないほど大事な日の前に、畳の張替えなどさせるはずがありません。吉良に関して言われることは、すべて完全に冤罪です。浅野がそこまでやるからには何か事情があったんだろうと考えるのは人の性ですが、実際のところは単に浅野が頭のおかしい人だったというだけのことです」（一部抜粋）

「いわゆる赤穂浪士の討ち入りは、お家取り潰しで職を失った人たちが、マトモな就職活動をするよりも「世間をあっと言わせて、イイ所に再就職しよう」みたいな一発や根性を丸出しにしただけの話です」（一部抜粋）

と、鼻でふんという程度の文であるが、かなり影響力を持つ方のようなので、単にこのページで鼻をかんで捨ててしまうわけにも行かない。

まず、畳替えであるが、浅野内匠頭が畳替えをするように、と言われている独立した2つの史料が存在する。一つは佐竹家の家老岡本元朝の日記と寺坂吉右衛門の私記である。岡本元朝は、この畳替えを前日に吉良上野介から言われて、浅野は吉良に遺恨を持ったと伝えている。そして、松之廊下で、吉良から「田舎者」と罵倒され思わず刃傷に及んでしまったのである。

現代における殺人事件も、多くが体面をケガされたからというのが原因である。これは警察白書で明確である。武士が人々の目の前でバカにされた時は、基本的にその相手を斬り殺すのが江戸時代なのである。ましてや江戸時代のお殿様であつたら言うに及ばず。また多くの歴史家が指摘しているように、浅野内匠は頭がおかしかったという証拠はない。刃傷事件で御目付多門伝八郎が取り調べた時や、切腹時の田村右京太夫の屋敷では、いずれも浅野内匠頭は冷静に対処しており、頭がおかしかったという史料はない。さらに吉良の悪行を示す史料はごまんとある。一つ一つここで挙げるわけにもいかないので、過去に書かれた「中央義士会会報」「全国義士会連合会会報」「NPO法人忠臣蔵倶楽部会報」を見てほしい。なお、これらの会報は中央義士会のホームページの「会報のページ」で読めるのでアクセスしていただきたい。

次に、討入りが就職活動だと言う方は多い。その方々はいずれも史料を読んでいないので、大石内蔵助らの決意を知らない。たとえば元禄15年9月5日の大高源五の母宛の書状を読んでもらいたい。討入りで切り死にするか、又は捕まって首を切られて死ぬか、最初から死ぬ覚悟であることが切々と書かれている。もし就職活動と読めるのであれば、その方はまさに読解力のない「バカ」そのものである。

このような、史実に基づかない思いつきでデタラメが書かれている本や雑誌などを見つけたら、どんどん批判文を書いて当会報に投稿してほしい。

泉岳寺四十三世 要道機融大和尚葬儀

泉岳寺四十三世要道機融大和尚が令和元年十二月三十一日に入寂されました。八十七歳でした。

速夜（通夜）が令和二年一月二十九日、本葬が一月三十日に行われました。

中央義士会からは、速夜に中島理事長、富岡副理事長、荻原常務理事、宮川理事、進藤理事、石渡会員が出席、本葬には中島理事長、富岡副理事長が出席されました。また、供花は中央義士会会員一同として出させていただきました。供花は会員三十一名の方々から献花代として、いただいております。（別典名簿参照）

一月二十九日の速夜は夕方五時から始まりまして。本堂の扉が開き、そこに焼香台が置かれ、読経の中、外から直接参列者によるお焼香が行われました。参列者は、本堂の中と本堂前のテント内、ならびに講堂で待機し、順次お焼香を行いました。なお、大本山永平寺より「大本山永平寺贈西堂」の面贖が授与されたことが発表されました。

一月三十日の本葬儀は、午前十一時から始まりまして。中島理事長と富岡副理事長は本堂内の席で待機、葬儀に参列いたしました。両日共に曹洞宗総本山永平寺ならびに総持寺からのお使いと五〇を超える寺院の参列がありました。

萬松山泉岳寺は、徳川家康が今川義元の菩提を弔

うため、慶長十七年に外桜田靈南坂に創建されました。開祖は義元の孫の門庵宗閑和尚で、寛永十八年に消失。家光の命で、現在の高輪に再建されました。再建には浅野家を始め、毛利・朽木・丹羽・水谷の五大名が尽力しております。要道機融大和尚は四十三世になります。また、新しい住職は松根大地師です。

なお、中央義士会は明治四十三年から泉岳寺において、赤穂義士ならびに浅野内匠頭の法要と顕彰を行ってきており、大変縁があるお寺です。

（文 荻原 写真 進藤）



泉岳寺葬儀前



通夜でのお焼香



本堂内

浅野内匠頭三二〇回忌法要報告

荻原 栄

令和二年三月十四日、浅野内匠頭三二〇回忌の法要を泉岳寺において催しました。

今年三月十四日が土曜日のため、十四日に執り行いました。新型コロナが流行ったため、三十人中、数名の方が、参加の取りやめをご連絡いただきましたが、大阪からの参加者や高校生の参加もあり盛会となりました。

午後二時から、泉岳寺本堂において浅野内匠頭の法要が執り行われました。



本堂での法要 新住職松根大地師の御挨拶

昨年、十二月三十一日に住職の四十三世要道機融大和尚が入寂されたため、新住職の松根大地師が、導師となつて法要が執り行なわれました。また、新住職からご自身のご紹介の後、次の御挨拶がございました。

これからも前任職の意志を継ぎ、元禄赤穂事件について、中央義士会と共に盛り上げていきたいと思ひます。なにぶんにも元禄赤穂事件については、詳しくないので、今後、元禄赤穂事件の講座を開くなどして、普及に努めたく思つております。永いお付き合いなので、今後もよろしくお願ひします。

法要の後、浅野内匠頭、瑠泉院、大石内蔵助の卒塔婆が参加者の方によつてお墓に添えられました。

その後、本堂横の庫裏において例会が行われ、中島理事長から、「なぜ浅野内匠頭は殿中で刀を抜いたか？」の講演が行われました。

さらに、ご出席された新潟大学名誉教授の富澤信明氏に、中央義士会の最高顧問に就任いただくことに決定しました。

懇親会に入り遠方から来られた方々の紹介が行われました。続いてお楽しみ抽選会で豪華賞品などが当たり、今年も盛会のうちに幕を閉じました。



庫裏の二階での様子



例会での中島理事長の講演

元禄忠臣蔵を歩く

中央義士会評議員 蟹江 元

令和二年一月二十六日に赤穂義士引き揚げウォーキングに参加しました。参加人数はおよそ三十名です。全員を三班に分け、それぞれに説明員と安全担当の人がつきました。

九時十五分に両国駅集合で吉良邸跡に向かいました。歩くにあたっては、大江戸今昔めぐりIPADアプリを使いました。現代地図と江戸時代末の地図を重複させて比較ができ、自分の位置を常に確認できます。即ち江戸時代の地図上を歩けます。私は第一班で赤穂の方も加わりました。まず、吉良邸正門跡・裏門跡と周り、吉良上野介を討取った場所を見て回向院経由で、四十七士が休息した両国東広小路に向かいます。ついでに現在の両国橋袂にある大高源五句碑に行きました。「日の恩や忽ちくたく厚水」句碑は史実にはないとのことですが、昭和三年に誰が建立したのか気になります。

次に堅川に架かる一ツ目之橋（現在は一之橋）を渡ります。四十七士は大川に沿って柵木（現在は正木）稲荷まで一直線でした。当時はこの稲荷が先端にありましたが、そこは川底になっています。私たちは迂回し芭蕉稲荷大明神前を通り、万年橋に向かいます。

四十七士は万年橋を通り大川に沿い直線で上之橋（仙台堀）、中之橋、下之橋（油堀）を通り右に御船

蔵を見て永代橋に向かいました。

私たちは現在の佐貫町河岸通りは河岸ではないので、万年橋から階段を降りて隅田川テラスを通り、現在の永代橋を渡りました。そして永代橋袂にある御船手番所を通り、霊岸島新堀に架かる豊海橋を通りました。新川に出て、この川に沿い新川に架かる二ノ橋を通り、越前福井藩邸前から亀島川に架かる高橋を渡りました。さらに八丁堀に架かる稲荷橋を通り、稲荷橋は鉄砲洲通りになり消滅しましたが、稲荷橋の石表示が残っています。広場の鉄砲洲稲荷神社から直線で本湊を通り、鉄砲洲築地に出て右に、鉄砲洲川に架かる見当橋を渡ります。私たちは、見当橋から埋め立てられた鉄砲洲川や左の通りから居留地通りに出て築地川沿いに旧浅野藩邸前に出ました。浅野邸を横断したことになります。四十七士は備前橋袂から築地本願寺前を左に築地川に出て、右に築地川沿いに二之橋を渡り、三十間堀に架かる木挽橋袂でこの堀に沿い直進し御堀に架かる汐留橋を渡っています。

大木戸・高札場を通り泉岳寺境内通りから泉岳寺に入りしました。ここで記念写真を撮り一旦解散し、細川家の切腹の地に向かいました。

え泉岳寺まで十二キロの道を参加者全員完歩して良かったです。四十七士の隊列が大きく崩れていたなんて知りませんでした。戦闘の後の重装の身はこの距離は、きついと思いました。



大石内蔵助ら切腹の地において



全員集合写真

第8回忠臣蔵通3級検定試験問題

[申込方法]

・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX番号並びに、第8回3級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛てFAXまたは郵送でお送り下さい。FAXをお持ちの方は、できるだけFAXでお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403

NPO法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

・ 受験料と振込先

3級の受験料は1000円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。

NPO法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038

払込取扱票の通信欄に「第8回3級試験申し込み」と記入下さい。

払込料金をご負担をお願いしております。

[解答の送付]

解答はFAXで下記へお送りください。郵送の場合は、下記の中央義士会事務局へお送りください。メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。

FAX 048-973-3790

郵送宛先 〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 58-12 中央義士会事務局

- ・ 提出締め切りは令和元年年10月末です。合否は11月になってからお知らせ致します。

[注意事項]

- ・ 合格点は80点です。24問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 中央義士会の過去の出版物でも誤記はありますので充分確認の上、解答して下さい。
- ・ 受験料は締め切りの1ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、令和2年10月末日です。

忠臣蔵110番

○講演・探訪会の講師派遣（有料） ○テレビ・ラジオ番組制作協力（有料）
○忠臣蔵書籍出版 ○忠臣蔵図書の買い取り・販売 等

携帯 080-8908-1633 メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

第1問	泉岳寺の浅野内匠頭の墓石右にポツンと建っているお墓はどなたのお墓でしょうか。
第2問	間十次郎の書状の前で、坂本龍馬は暗殺されました。この状況を説明して下さい。
第3問	伊豆大島にも元禄事件の悲しい史蹟があります。どんな史蹟でしょうか。
第4問	松之廊下刃傷事件を請けて、早駕籠が赤穂へ走りますが、一つの駕籠は何人で担ぐのでしょうか。
第5問	早駕籠ではなく、なぜ馬で赤穂へ向かわなかったのでしょうか。
第6問	泉岳寺の義士墓の内に、地藏尊がありますが、これは何のために建てられたのでしょうか。
第7問	中央義士会は、大正時代に一度だけ理事長の上に、総裁がおりました。その総裁はなんといい方でしょうか。
第8問	なた豆の味噌漬けと義士たちの関係を説明して下さい。
第9問	討入り口上書は青竹に挟まれて吉良邸の玄関前に立てられたのですが、青竹を割ったのはどなたでしょうか。
第10問	萱野三平の母小満は、いつ亡くなられたのでしょうか。
第11問	元禄14年3月14日の勅使は何名でしたでしょうか。
第12問	元禄14年当時の梶川与惣兵衛の勤め先は大奥でした。これは間違いでしょうか。
第13問	忠臣蔵のエンタテイメント（芝居）は今後益々人気が上がっていくでしょうか、下がっていくでしょうか。
第14問	吉良上野介のお茶の師匠はどなたでしょうか。
第15問	「りよ」という子供はどなたの子供でしょうか。

第16問	「お石の方」とは、どなたの母親になる方でしょうか。
第17問	「無量院」というお寺には、どなたのお墓があったのでしょうか。
第18問	足軽寺坂吉右衛門の主人はどなたでしょうか。
第19問	討入り前に「26両」もの借金をしたのはどなたでしょうか。
第20問	「去年以来志浅深之次第」を示した手紙は現在、この世に存在するのでしょうか。
第21問	天野弥五衛門のことを「ある旗本」と言っていたのはどなたでしょうか。
第22問	安兵衛の上申書を保有している関係団体はどこでしょうか。
第23問	泉岳寺に3人の商人が墓を建てたというのは何のことでしょうか。簡単に説明して下さい。
第24問	討入り後、赤穂事件のことを批判した方が何名かいますが、知っていましたらその方の名前を挙げて下さい。
第25問	元禄事件当時の堀部安兵衛の妻の名前はなんというのでしょうか。
第26問	その安兵衛の妻のお墓は、現在どこにあるのでしょうか。
第27問	徳川綱吉の身長が、1m24cmといわれておりますが、何を根拠にしているのでしょうか。
第28問	元禄事件当時の赤穂花岳寺の住職はどなたでしょうか。
第29問	池田大和とはどなたのことでしょうか。
第30問	大高源五に嫌われていた上司はどなたのことでしょうか。

泉岳寺四十三世 要道機融大和尚
令和二年一月二十九日 中央義士会献花者

- 善野淳子 (顧問)
- 吉田泰仁 (理事)
- 勝田芳造 (評議員)
- 大内満利子 (特別会員)
- 三輪三郎 (理事)
- 宮川政士 (理事)
- 松寄せつ子 (会員)
- 進藤 務 (理事)
- 坂藤美子 (評議員)
- 高光寺 (赤穂・評議員)
- 瀬川友子 (会員)
- 瀬川美保 (会員)
- 露木和代 (会員)
- 遠藤信夫 (理事)
- 塚原裕子 (会員)
- 石束邦子 (会員)
- 武類俊哉 (評議員)
- 杉山正信 (評議員)
- 蟹江 元 (会員)
- 岡田良江 (会員)
- 上原益雄 (評議員)
- 小林絹代 (会員)
- 掛水 仁 (評議員)
- 内山晴代 (評議員)

- 横山哲也 (評議員)
- 塩澤保路 (会員)
- 江口武人 (会員)
- 菅野 茂 (会員)
- 石渡千歳 (会員)

(敬称略)

一月二十九日 遠夜(通夜) 中央義士会参列者

- 中島康夫 (理事長)
- 富岡 克 (副理事長)
- 荻原 栄 (常務理事)
- 宮川政士 (理事)
- 進藤 務 (理事)
- 石渡千歳 (会員)

一月三十日 本葬儀中央義士会参列者

- 中島康夫 (理事長)
- 富岡 克 (副理事長)

今期の寄付者

- 吉田泰仁様 一五〇〇〇〇円
- 大内満利子様 三〇〇〇〇円
- 富岡 克様 三〇〇〇〇円
- 大内真弓様 一〇〇〇〇〇円

会報発行にあたっての寄付者
(本号会報は左記の方々のご寄付によって
発行できました)

- 富岡 克様 匿名様
- 進藤 務様 上原益夫様
- 三好一行様 匿名様
- 丸山裕之様 蟹江 元様
- 瀬川友子様 匿名様
- 掛水 仁様 荻原 栄様
- 西山祐司様 柿崎輝彦様
- 武類俊哉様 横山哲也様
- 匿名様 露木和代様

泉岳寺門前

廣 瀬 商 店

中央義士会の出版書
多種販売しております

03-3473-2612

地 盆 科 山 都 京

やすらぎを求めて

岩屋寺忠誠堂

永代供養納骨佛

下記へお問い合わせ下さい

075-581-4052

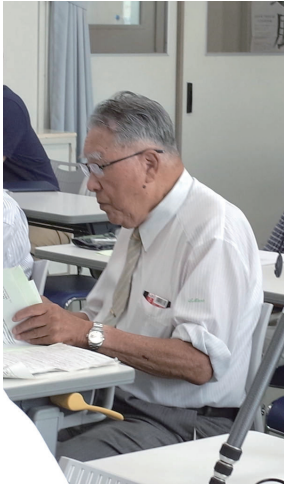
喪 報

中央義士会並びにNPO法人忠臣蔵倶楽部の理事をされていました三輪三郎氏が、五月一日に脳腫瘍によりお亡くなりになりました。九十一歳でした。

大蔵省を退職した後、中央義士会に入会。毎月の勉強会、愛好会にも必ず参加され、特に一月に行われる、吉良邸跡から泉岳寺まで赤穂義士の引き揚げコースを歩く会には毎回参加され十二キロを完歩していました。

また会報にも常に投稿されており、平成二十八年には「俳諧忠臣蔵」を執筆・出版されるなど、ご活躍されました。

四月には五月の理事会には参加します、とのお元氣な声を聞いたばかりでした。



ご冥福をお祈りします。

2019年8月4日勉強会での三輪さん

NPO法人忠臣蔵倶楽部

代表代行 荻原 栄

NPO法人のホームページは <http://www.chuushingurane/> です

山本寛齋氏のご冥福をお祈りいたします

当会の忠臣蔵勉強会に通われておりました山本寛齋氏が七月二十一日死去されました(七十六歳)。山本様とは、二十年前泉岳寺でお目にかかって、事務所にもお邪魔をし、パリの忠臣蔵公演のお話を伺ったこともございました。こちらが入院の節は、お見舞いまで頂いたこともございました。ご一緒にお仕事ができると思っておりましたので、大変残念です。

合掌

山本博文氏のご冥福をお祈りします

忠臣蔵関係の著作も多く、テレビなどマスコミでも活躍された山本博文氏が、腎盂がんで3月29日に死去されました。63歳でした。
東京大学史料編纂所教授で、時代劇チャンネルの番組では、中島理事長とともに出演されたこともあります。戦前から戦後にかけて中央義士会の会長をしていた、渡辺世典先生が史料編纂所の教授をしていたこともあり、何かと中央義士会とはご縁のある方でした。

2月1日の広島三次での講演が最後の講演になったとのこと。合掌

NPO法人忠臣蔵倶楽部

監事 柿崎輝彦

横浜市港北区在住

編集後記

去暮に発表された「決算・忠臣蔵」(松竹映画)のおそまつなことこの上ない。内蔵助の堤真一が刀を抜いて「エイッ」にはおどろいた。制作者の無知が発揮された一場面であった。内蔵助は東軍流で気合いを入れないで打ち込むのが常。その他、ミスキャスト、更に、決算といいながら、決算が違っていた。六百九拾七両じゃ二年間もたない。二千両程使っているのが史実だ。従ってこの映画、尾も引かん。全国的にアンケートを取ったが評判悪し。観劇料を返せという方もいた。忠臣蔵を知らない方々が忠臣蔵の演劇を作るのが昔からの常道だ。テレビ番組の忠臣蔵特集の方がおもしろい。

編集者 中島康夫(企画・編集・検証)
荻原 栄(編集、柿崎輝彦 蟹江 元
エム・シヨット(印刷)